

緑の基本計画とは

- 都市緑地法第4条に規定されている「市町村の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」であり、都市のみどりに関する総合的な計画
- 本計画の計画期間：2035（令和17）年まで（10年間）
- 本計画の対象区域：大阪市全域（広域的なみどりの取組については、周辺都市とも連携を図る）

計画の主な構成

●：計画本編での掲載ページ

P.43~45

今後のみどりのまちづくりを考える上での重要な視点

各要素に反映

- 【共通の観点】SDGsの達成への貢献・グリーンインフラの概念
- 大震災や都市型洪水など都市防災への対応
 - 都市における自然環境・生物多様性の保全
 - 気候変動への対応や都市環境の改善
 - 都市の個性や魅力・風格の向上
 - 多様な主体によるまちづくりと連携したまちの価値向上
 - みどりの創出・保全と情報の発信・共有
 - 一人ひとりのいきいきとした都市生活の実現

P.46

基本理念

P.54~56

基本方針

P.71~104

個別取組

P.105~123

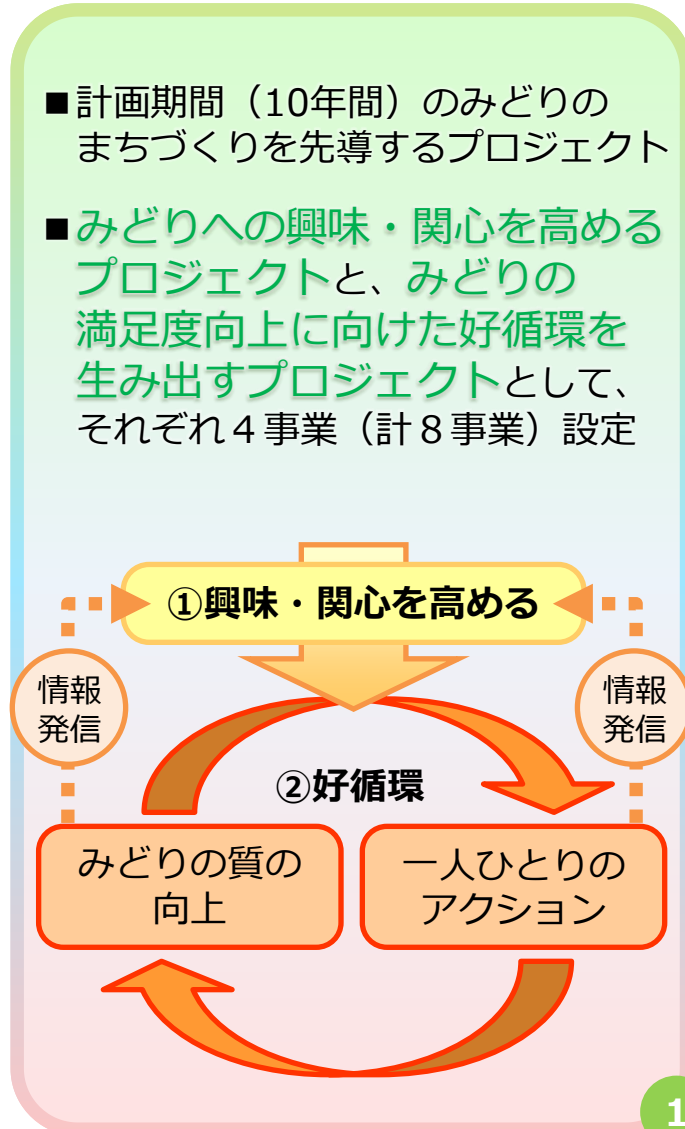
リーディングプロジェクト

みどりの魅力あふれる大都市・大阪
誰もが住みたい・働きたい・訪れたいと
思う「みどりの都市」へ

この基本理念を実現するためには…

- 【方針①】都市を支える健全で快適な「みどり」を“育む”
- 都市の中で求められる多様なみどりを確保しながら、公園や道路をはじめとした都市内の樹木を丁寧に育成するなど、都市を支える健全で快適なみどりを育む
- 【方針②】まちの多様な「みどり」を“活かす”
- まちの価値向上が図られるよう、産・官・学・民がそれぞれの目的やニーズに応じて、まちの多様なみどりを自由な発想で柔軟に活用する
- 【方針③】人と人が「みどり」で“つながる”
- 一人ひとりの豊かな都市生活（住む、働く、訪れる）の実現に向け、みどりを“育む・活かす”取組をきっかけに、人々が集い交流し、みどりを中心としたコミュニティ醸成につなげていく

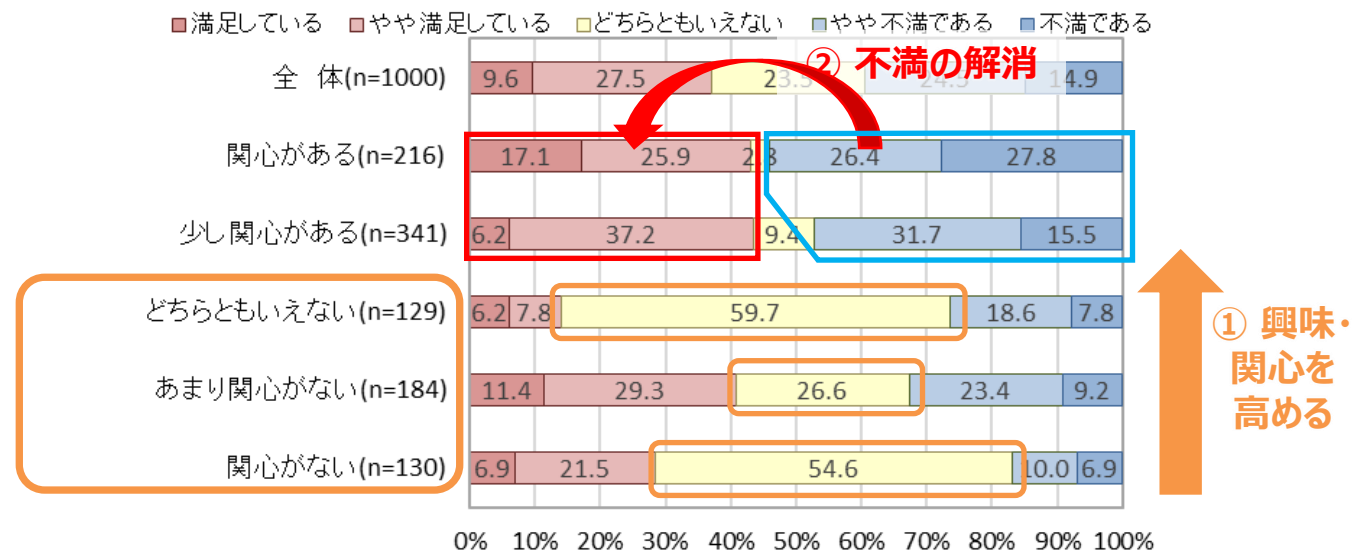
- みどりの持続的な保全と機能向上
- 多様なみどりの創出
- 柔軟なみどりの活用
- エリアやみどりの特性を踏まえたマネジメント
- みどりを介した人と人とのつながりの醸成
- それぞれの個別取組を一体的に推進
- みどりに関する情報・価値の共有と発信



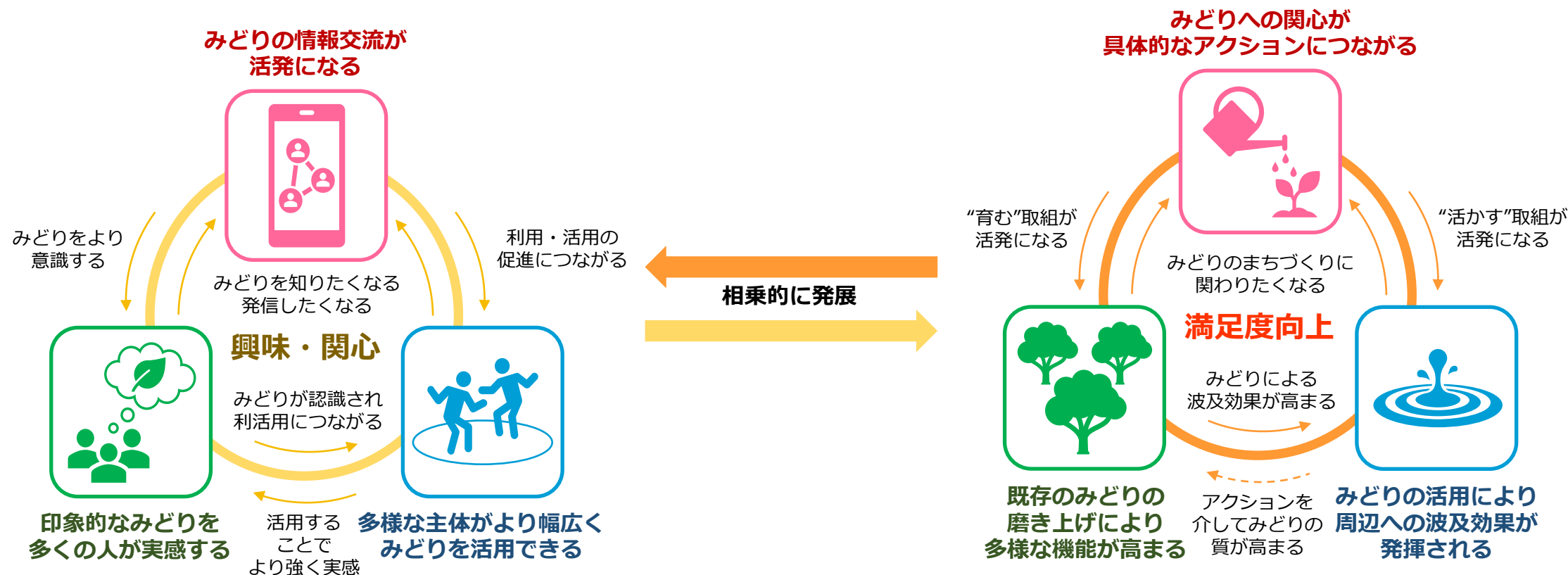
1 LP設定の考え方

- ✓ 現行の基本計画期間では、「身近な緑の満足度」が低下傾向にあり、基本理念に掲げる「誰もが住みたい・働きたい・訪れたいと思う『みどりの都市』」を実現する上での大きな課題となっている
- ✓ 令和6年度に実施した市民アンケートについて分析した結果、日常生活の中でのみどりとの関わり方が、満足度に影響している可能性が明らかとなった
- ✓ このことから、今後は次の取組が求められると考えられる
 - ① みどりと関わる機会を創出し、興味・関心を高める
 - ② 既存のみどりの質の向上により、不満を解消する

身近な緑の満足度と緑への関心度の関係性 ※ 令和6年度市民アンケート調査結果を基に分析



「みどりへの興味・関心を高めるプロジェクト」と「みどりの満足度向上に向けた好循環を生み出すプロジェクト」を設定



【基本方針①】

“育む”

① みどりへの興味・関心を高めるプロジェクト

①－A

多くの人に認識される
街路樹・公園樹の景観・
快適性向上

多くの人を訪れる公園や道路などにおいて、
美しい樹形と豊かな緑陰を形成し、景観向
上や空間としての快適性向上を図る



豊かな緑陰形成の
イメージ

①－B

開発に合わせた民有地
緑化の推進

民間開発に合わせて多様なみどりを取り
入れる取組を拡大・展開させ、質の高い
印象的なみどりの創出・育成を図る



民有地緑化の事例
(新ダイビル「堂島の杜」)

出典：社会・環境貢献緑地評価システム (SEGES) HP

①－C

多様な主体によるみどり
空間の幅広い活用

多様な主体による幅広い活用の取組を、
より多くのみどり空間で根付かせること
で、みどりに対する興味や愛着を高める



公園活用のイメージ
(パークファン)

①－D

多様なツールを活用した
みどりの情報共有・発信

ポータルサイトやSNSなど、多様な
ツールを活用した情報の共有・発信に
より、みどりを知る・触れる機会を創出



みどりのポータルサイト
(みどりの都市・大阪ONLINE)

【基本方針②】

“活かす”

② みどりの満足度向上に向けた好循環を生み出すプロジェクト

②－A

市内全域における
街路樹・公園樹の
計画的な保全育成

市内全域の街路樹・公園樹を対象に、植
栽環境に応じた、計画的な維持管理を行
い、健全な樹木の保全育成を推進



計画的な維持管理の
イメージ

②－B

利用者の意見を反映した
公園の魅力向上

利用者の意見を反映させた公園施設の導
入や、機能分担の視点を踏まえた調査
検討・試行により、公園利用を促進する



魅力ある公園施設のイメージ
(複合遊具)

出典：土居川公園HP

②－C

地域・エリアのステーク
ホルダーによるみどり
空間の活用・運営

地域・エリアのステークホルダーが公園
などを活用・運営することで、地域の
課題解決やエリアの価値向上につなげる



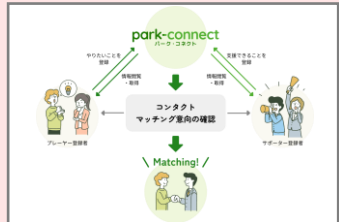
地域主体のイベント事例
(草津川跡地公園)

出典：草津川跡地公園HP

②－D

みどりのまちづくりに
参画・支援する取組の
展開

様々な活動を支援できる仕組みを構築し、
多様な主体による参画・支援の輪を拡大
させていく



公園活用プレイヤーと
サポーターのマッチング
(パーク・コネクト)

【基本方針③】

“つながる”

(キャッチコピーイメージ) Green Wellness Osaka

輝くみどりのまちづくり

Wellness Osaka

で育んできた「みどり」のストックや多様な
プを大切にしながら、大阪の顔となる場所
の都市機能を支える拠点エリアをはじめ、
発揮できるよう、市域のみどりの

やニーズ、役割に応じて、
活動を介してみどりを
なげること、大阪市
り豊かになる、
」の

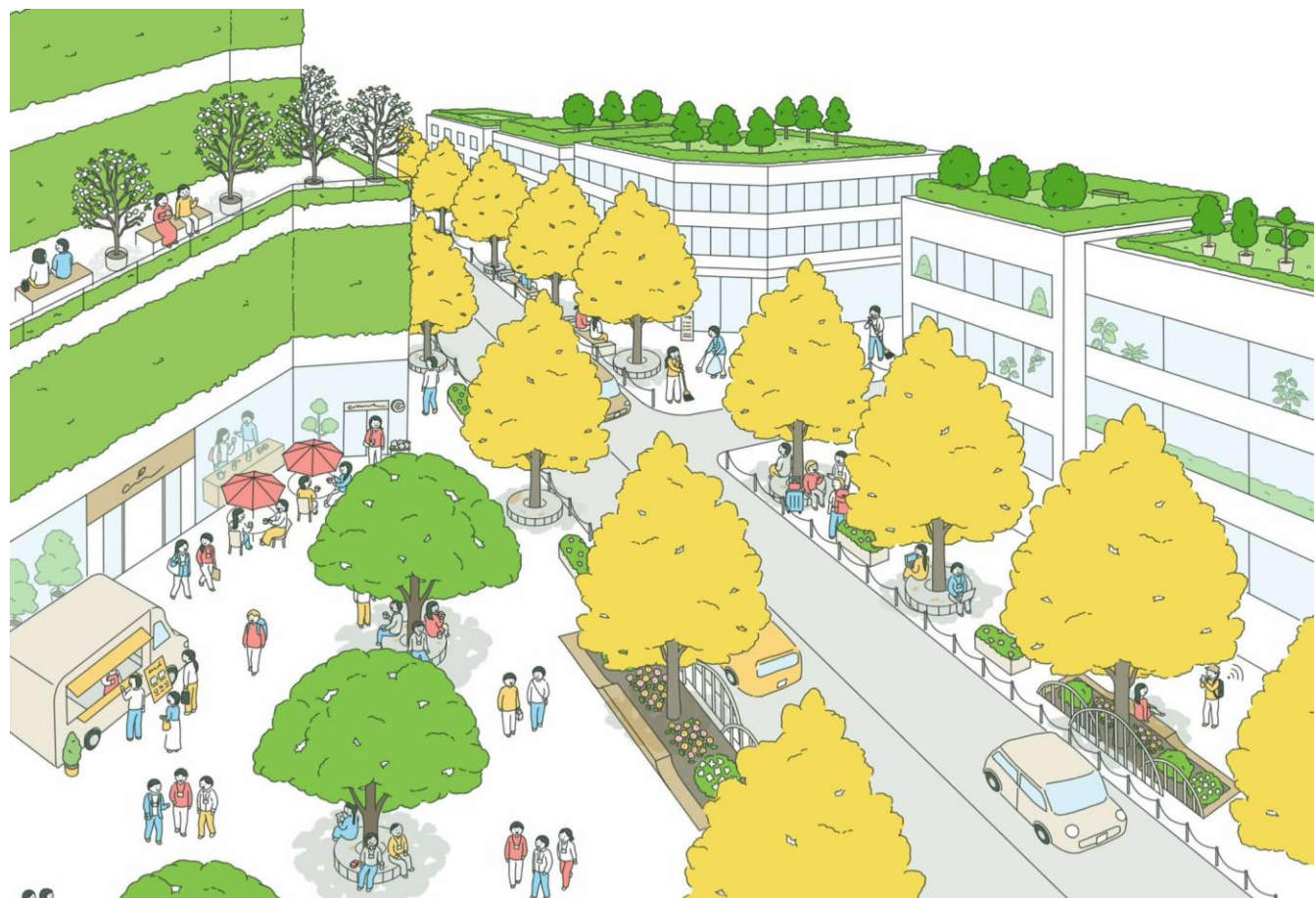


- 計画の推進にあたっては、市民、民間の企業・法人、学識、行政の多様な主体がそれぞれの役割を担い、各々の強みを活かしつつ、相互に連携・支援していきます。
- みどりのまちづくり指標を設定し、2030（令和12）年度末の中間評価や、2035（令和17）年の計画改定に活用します。



【みどりのまちづくり指標】

種類	内容	項目	基準値	目標値	関係する基本方針		
					育む	活かす	つながる
成果指標	みどりのまちづくりの成果としてめざす指標	身近なみどりの満足度	37.1%	50%	●	●	●
		みどりが増えたと感じる人の割合	24.3%	33%	●	●	●
		身近な公園の利用頻度	38.0%	45%	●	●	●
達成指標	みどりのまちづくりの中で行政がめざす量的目標値となる指標	緑被率	10.7%	現状以上	●	●	●
		都市公園の市民一人あたり面積	3.5㎡/人	3.7㎡/人	●	●	●
共有指標	みどりのまちづくりの進捗を把握する尺度として、緑化の意識啓発につなげるための指標	緑視率	各地点で測定	—	●	●	●
		地域に身近な都市公園の利用状況	地区公園と近隣公園で測定	—	●	●	●
LP指標	リーディングプロジェクトでめざすアウトプットを示した指標	取組ごとに設定（本編第5章参照）			●	●	●



■働く人・訪れる人を惹きつけるみどりのシーン例（幹線道路・訪れる人）



■「住む人」に身近なみどりのシーン例（地域に身近な都市公園）